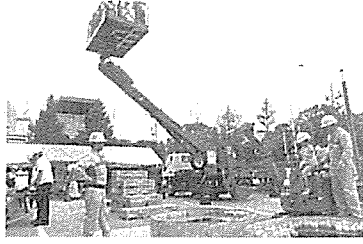


真剣にミニシヨベル操作

光る泥団子やミニ庭園づくりも

協賛が
推進が
広報的
子ども
園が関
関で催

夏休みを利用して、子どもたちに広く社会を知ってもらい、その両親等にも、政府の施策に対する理解を深めてもらうことを目的に、27日ときよ28日、東京・霞が関の各直庁で、16年度子ども霞が関見学デーが開かれている。



これに今年度も国土交通省が参画したほか、国交省や建設業団体で構成する「建設産業戦略的広報推進協議会」も参画。国交本省が事務所を構える中央合同庁舎3号館で、各種イベントを開催し、子どもたちに建設産業の魅力を伝えた。

今年も人気になったのが、「1階正面玄関で開催した建設現場で使用する機械とのふれあいコーナー」。「ミニパワーシヨベルの操作体験」「写真手回右」と「高所作業車の試乗体験」が写真中央だ。

日本建設業連合会、全国建設業協会、東京建設業協会、大成建設の協力を得て

ミニシヨベルを操作し、カラーボールすくいに挑戦した。

また、地上15層まで到達する高所作業車のプラットフォームに子どもらが試乗し、普段経験できない高所から下を眺め、手を振って楽しんだ。

一方、屋内では、職人の技の体験や展示を通じて魅力を発信した。日本左官業組合連合会と東京都左官組合連合会の協力のもと、「光る泥団子づくり体験」や「塗り壁体験」、日本造園組合連合会の協力のもと、「ミニボットに植栽する」「ミニミニ庭園づくり体験」や、カラフルな紐を使用した「関守石文鎮づくり体験」を開催した。

また、日本アンカー協会の協力のもと、「よく分かる！ アンカー工事の仕組み」を紹介。これらイベントとスタンプラリーを連動させ、スタンプを全て集めた参加者には記念品を贈呈した。